

くらしき作陽大学鶴声会 会報

# 鶴の声

vol.13  
2023.9

TOPICS

令和4年度総会開催報告  
田渕愛子さん 松尾芸能賞 受賞!



## 会長あいさつ



くらしき作陽大学鶴声会

会長 木村 一也

(昭和58年 音楽学部音楽学科卒業)

鶴声会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。日頃より同窓会鶴声会の活動に際しまして、ご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

本年度も鶴声会会長を務めさせていただきことになりました木村でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度は同窓会の事業として、コロナ禍における学生支援ということで、食堂や売店で使用できるチケットを学生全員に配布いたしました。わずかではありましたが、少しでも援助になればと思い、贈らせていただきました。

くらしき作陽大学でも3月には、卒業生のみではありましたが、卒業生全員が一堂に会しての卒業式も行われ、私も同窓会会長として式に初めて出席をさせていただきお祝いの言葉を伝えさせていただきました。式では凛々しく、決意をもって卒業される卒業生の皆さんに頼もしさを感じ、元気もいただきました。くらしき作陽大学で学んだことに自信を持ち、これからの時代をしっかりと生き抜く人となっていたいただきたいと思っております。同窓会の一員となられました皆さんを、鶴声会としてもしっかりサポートしていきたいと思っております。

さて、昨年11月には、くらしき作陽大学同窓会「鶴声会」総会を4年

ぶりに「くらしき作陽大学の原点」でもあり、本学の礎となった地でもある、津山市において75人の参加をいただき、盛大に開催することができましたことは皆様のご協力があったことと感謝いたしております。ありがとうございました。総会では昨年度の事業、決算及び、今年度の事業についてもご承認をいただき感謝申し上げます。

また、総会に先立ち、作陽音楽大学のキャンパス見学を行い、作陽音楽大学を卒業された方々からは、学生時代を思い出し懐かしくキャンパスの散策をしていただきました。総会后レセプションも行いましたが、開学当時教べんとられていた先生方をはじめ、お世話になった方々にも参加をしていただき大変盛会でした。

参加をされた方々のうち、一番多かったのが第一期生の皆様ではなかったでしょうか？第一期生の皆さんには、開校当時のご苦労や、さまざまなエピソードもうかがうことができ、一期生の皆様のパワーと団結力、そしてなにより仲の良さを披露いただき、会を盛り上げていただきました。こういうところに作陽の良さがあるのだと改めて感じました。私自身も学生時代を思い返してみれば、学業よりも仲間と過ごした時間や先輩や後輩とのつながりがとても懐かしく大切な思い出としてあり、今の自分があるのも作陽で学べたからだと感じています。

今年5月から新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行され、さまざまな活動が再開されつつあります。同窓会「鶴声会」の会長として、皆様のところへ向うき声を聴かせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

結びに、会員の皆様の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念するとともに、鶴声会への変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますことをお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

## 学長あいさつ



くらしき作陽大学

学長 松田 英毅

同窓会会員の皆さんにはお変わりなく元気でお過ごしのことと思います。

今年の春、同窓会の初代会長であった菊井勝さんが浄土に還られました。大学一期生で大学の事務職員として大学の草創期より倉敷移転後まで三十五年にわたり、大学のため、同窓会のため尽力してくださいました。心からご冥福をお祈りいたします。

今年度、高校がJR新倉敷駅そばに移転をし、こども園から大学まで作陽学園のすべての学校が玉島に集まり、一体感を強くしています。

作陽学園は「念願は人格を決定す 継続は力なり」のこことばをすべての園児、生徒、学生がおぼえ、学び、実践している学園といえます。

大学附属認定こども園では、毎朝、園児が観音さまの前に集まり、小さな手を合わせ「ねんがんはじんかくをけていす けいぞくはちからなり」を唱和しています。小さい子にはことばの意味はわからないでしょうが、家の人にそのことばを得意になって言うそうです。立派な目標に向かって努力を続けていくところに目標が達成され、立派な人になる、という意味であることが大きくなるにつれわかり、そのような人になるにちがいがありません。さらに、この言葉が、人は、一人の例外もなく立派な人格者になる芽をもち、伸ばそうとしていること、同時に、み仏さまがつねにその芽を伸ばすようにはたらきかけていること、を意味していることがわかり、人としての本当の生き方をする人になるでしょう。そして、家族のため、社会のため、さらには人類のために貢献することをよろこびとするような人になってくれるものと思います。

それは、作陽で学んだ全ての人の生き方であり、現代人の“今だけ、自分だけ、お金だけ”という生き方とは真逆の生き方ですが、作陽魂であふれる社会にならねばわが国も、世界も、地球も救われなれないと思われまふ。作陽精神がいっぱいになる社会を、人類は心の底では願っていると思います。みなさんのご活躍を祈ります。



## 総会報告

天候にも恵まれた令和4年11月5日(土)に津山鶴山ホテルにて令和4年度鶴声会総会を開催いたしました。

総会の前には、令和5年4月の作陽高等学校倉敷移転に伴い、旧作陽音楽大学の敷地内にも立ち入りができなくなるため、最後のキャンパスということでキャンパスツアーを実施いたしました。ツアーには40名の会員にご参加いただき、懐かしの校舎を巡りました。残念ながら老朽化による倒壊等の危険があるため校舎内に入ることはできませんでしたが、大学が倉敷移転前の時間が止まったままの校舎を見学し、参加した会員のみなさんは学生当時の思い出話に花を咲かせ、当時に思いを馳せていらっしゃいました。

その後、旧大学キャンパスを後にし、津山鶴山ホテルにて総会が開催され、75名の出席がありました。木村会長挨拶の後、

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| (1) 令和2・3年度事業報告承認   | (5) 令和4・5会計収支予算案審議  |
| (2) 令和2・3年度会計収支決算承認 | (6) 令和4年度鶴声会新規事業案審議 |
| (3) 令和2・3年度会計監査報告   | (7) 役員選任            |
| (4) 令和4・5年度事業計画案審議  |                     |

以上7つの議案について審議され、すべての議案において全員異議無く了承されました。

(6) 鶴声会新規事業については、在籍中の学生に対し、コロナ禍や世界情勢の影響による物価高騰、生活の変化に伴う経済的負担の一助になればと、学内の学生食堂や売店での物品購入の際に利用可能な1,000円分のチケットを鶴声会より学生全員に発行するというものです。会員から金額増額の提案がありましたが、鶴声会事務局で再検討し、その決定に委任することとして実施の了承を得ました。併せて、鶴声会は大学の同窓会であるため、短期大学の在学生については、短期大学の同窓会翠会に協力を依頼することで了承を得ました。

また、(7) 役員選任に関する件では、本冊子8ページに記載のとおり承認されました。引き続き、鶴声会運営に関しましてご協力をよろしくお願いいたします。

総会終了後の懇親会では、約80名の会員のほか松田英毅学長、赤堀昌枝先生、阿部靖子先生、守屋美枝子先生、山下静江先生、竹内京子先生、新名俊樹先生にもご参加いただきました。津山での開催が最後ということで遠方は北海道からの参加がありました。懇親会では津山キャンパスでの思い出の映像を流したり、先生方からの懐かしい思い出話など和やかな雰囲気になりました。また、多くご参加いただいた1期生のみなさんは、昨年90歳になられた赤堀昌枝先生を囲み、学生に戻られたように談笑と食事を楽しまれていました。その他の会員のみなさんも懐かしい先輩、同級生、後輩と歓談し、本当に良い笑顔で帰路につかれました。

次回総会は令和6年に倉敷キャンパスで開催予定です。ぜひ多くの卒業生の方にご参加いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

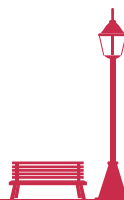


## 学生支援事業実施の報告

令和4年度11月総会で了承されました学生支援事業について、鶴声会事務局で検討した結果、大学内使用可能チケット1,000円分を進呈する旨決定し、2022年11月30日大学キャンパスにて贈呈式が行われました。松田英毅学長、松田光恵学長補佐など大学関係者にご出席いただき、鶴声会より大学学生に、翠会より短期大学学生に進呈いたしました。



実施後の利用状況については、約70%の利用を確認しております。



# 第44回松尾芸能賞新人賞受賞の快挙！



平成13年くらしき作陽大学音楽学部音楽学科民族音楽専攻卒業 田淵愛子さん

## 松尾芸能賞

日本の伝統ある劇場芸能を振興し、文化、芸能の保存および向上に寄与することを目的に創設。将来を期待される個人または団体を表彰。第44回大賞は俳優 市村正親さん、優秀賞には俳優 天海祐希さん、歌舞伎役者 尾上菊之助さん、演歌歌手 三山ひろしさんなど各界の著名人が受賞している。

このたびの受賞について、直接ご本人にお話を伺いました。

### —このたびは受賞おめでとうございます。お気持ちは？

嬉しいというよりも、感謝の気持ちでいっぱいですね。

歌舞伎やその他の古典芸能と違って、沖縄芸能で松尾芸能賞を受賞できる機会は少ないだけでなく、初めて琉球音楽という独立した分野で受賞できたことがとても嬉しく励みになりました。40年前に師匠の故照喜名朝一先生が受賞された時は、まだ「琉球音楽」ではなく「民俗音楽」でした。40年の歳月をかけて朝一先生をはじめとする実演家が沖縄の歌三線をアピールし続け、その価値を認めてくださる人々の努力があって、このたびの受賞に繋がったと思います。琉球音楽の世界にとっても大きな意味のある賞を受賞でき、本当にありがたいと感じています。

### —大学時代は民族音楽を選考されていますが、具体的には何を？

大学入学前からずっと興味があった沖縄音楽について参考文献などを研究し、論文を作成していました。私は民族音楽専攻の一期生なので、大変な部分もありましたが、それも今となってはいい思い出です。

卒業論文は、いま流行りのエイサーについて書きました。

### —歌三線を始めたきっかけは？

作陽の楽器庫には沖縄三線がたまたま一挺だけあり、当時の邦楽の先生がそれを貸してくださり、ずっと前から三線の音色が好きだったので、密かに練習をしていました。実技がない私にとって、演奏実技専攻生をとて羨ましく見ていたので、先生にはとても感謝しています。論文作成や三線の練習を重ねていくうちに沖縄音楽を本場で勉強したい、と思い、沖縄県芸への進学を決めました。そこで後の師匠となる故照喜名先生にお会いすることができました。先生はなかなかの個性の持ち主で、お会いした途端「もちろん入門するでしょ?!」と仰られ、大学院の勉強の傍ら習い事感覚で三線の稽古が始まりました。そして先生に惹かれたのか、この音楽に惹かれたのか、気付けば20年を超えています。

### —人間国宝 故照喜名先生に出会ったきっかけは？

作陽の一般市民向け公開講座「百人百話」に故照喜名先生がいらしたのがきっかけです。日本伝統芸能のコースの田中英機先生がお知り合いで、講座の後の食事に私も一緒にでき、遊びにいらっしゃいね、と声をかけていただきました。作陽の図書館に「南海の音楽」というCDがあり、学生時代に初めて照喜名先生の歌を聴き、これはすごい人だなと思ってぜひ会いたいなと思っていたところに、百人百話で先生の演奏と講座を生でお聴きすることができて夢のようでした。

### —歌三線とはどのような演奏スタイルですか？

歌三線は、その字の通り三線を弾きながら歌う演奏スタイルで、器楽の側面よりも歌が重視されます。また、ひとくちに三線音楽といっても実は沖縄ポップスに民謡といくつかのジャンルに分かれます。私が演奏するのは、「琉球古典音楽」という琉球王朝時代から首里城での宴席や士族の間でたしなまれてきた音楽です。沖縄県外ではなかなか聞く機会のない音楽ですが、非常にゆったりとした曲調です。自然や人間の心情を歌った30

字の琉歌が用いられるのも大きな特徴で、難易度の高い曲の中にはこの30文字を一文字ずつ長く伸ばして、17分かけて歌う曲もあります。

### —沖縄でのご苦労は？

やっぱり言葉とか発音のハンデが一番大きかったですね。

歌三線については、楽譜を見ずに口伝でお稽古をしていくスタイルで、先生の口癖は「三線は目で弾き、耳で歌え」でした。楽譜に忠実に楽譜にとらめっこしてきたそれまでの音楽感がガラリと変わりました。

### —現在の活動と今度の活動は？

今年の5月は松尾芸能賞をいただいた記念もあり、4回目のリサイタルを沖縄の国立劇場で開催しました。地元の岡山県でも演奏活動は続けながら、8年前から毎月三線教室で指導させていただいています。

沖縄県民ではない私であるからこそ、沖縄から外に音楽を発信していくことに貢献したいと思っています。

### 田淵愛子ホームページ

<https://www.aikotabuchi.com/>



## プロフィール

岡山県出身。現在は那覇市在住。

平成13年3月くらしき作陽大学音楽学部音楽学科民族音楽専攻卒業。

平成16年3月沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修了。

これまでに田中英機、また琉球歌三線を故 照喜名朝一(人間国宝)に師事。

平成24年に岡山、令和元年に沖縄、令和4年に東京において琉球古典音楽独演会を開催。芸能関係者からも高い評価を受ける。

令和元年に国立台北芸術大学非常勤講師、琉球新報社主催の琉球古典芸能コンクール審査員も務める。

現在、国指定重要無形文化財琉球舞踊(安富祖流地謡)および沖縄県指定沖縄伝統音楽安富祖流の伝承者に認定。

琉球古典音楽の正当な継承に専念する一方、演奏活動を積極的に行っている。



後列左から 田淵愛子さん、尾上菊之助さん、天海祐希さん、三山ひろしさん、前列左から 山村友五郎さん、吉田玉男さん、松尾國之理事長、市村正親さん、林家正家さん

## 親子で作陽生

**親** 岡城祐子(錦織)さん ※( )内は旧姓  
昭和61年3月 作陽短期大学音楽専攻科卒業

岡城家は、長女、長女の婿、長男、長男の妻と、一家5人が作陽の卒業生で、素敵なお縁をいただきました。ここまでそろうのも面白いですね。私は津山で学生時代を過ごし、今でも津山に行く機会があればいろいろな思い出がよみがえり第二の故郷だと感じています。娘たち4人にとっては倉敷が思い出の地であり、私と場所は異なりますが、聖徳殿がどちらにもあることで作陽の心を継承しているように思っています。

孫ももうすぐ4人になります。音楽好きになってもらいたい、願わくば作陽へ、と願っています。



岡城さん

**親** 寺尾唯子(森永)さん ※( )内は旧姓  
平成4年3月 音楽学部教育音楽学科ピアノ専攻卒業

卒業後は岡山市の音楽教諭と特別支援コーディネーターとして、日々たくさんの生徒とともにがんばっています。

年1回の学科発表会に向けて、合唱、オーケストラ、吹奏楽などの練習をしたことが懐かしく思い出されます。



寺尾さん

**子** 寺尾朱音さん  
令和4年3月 子ども教育学部子ども教育学科小学校・特別支援学校コース卒業

中学校から吹奏楽部で活動し、高校時代も吹奏楽部に所属していました。進学先を考えているときに母親が卒業したくらしき作陽大学を知り、また入学金給付などの特典があることも知り、入学を決めました。

卒業後は岡山市の小学校に勤務し、今年度は3年生を担当し、日々子どもたちと明るく元気にがんばっています。



**親** 内山恵理子(安藤)さん ※( )内は旧姓  
昭和52年3月 音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業

卒業して47年余り、月日が経つのは早いものです。学生の頃は自宅通学だったので、友達の下宿に泊まらせてもらったりして、楽しい良き時代を過ごしました。そのご縁で、いまだに連絡を取り合い、昔話に花が咲く今日このごろです。

**子** 福場史子(内山)さん  
平成14年3月 音楽学部音楽学科打楽器専攻卒業

学生時代は、毎日好きなだけ練習し、仲間と楽しい時間を過ごしました。大好きな作陽パーカッショングループと金管バンドサークル(All Star Brass Band)に所属し、いろいろな経験ができ、充実した4年間でした。

今年度より、くらしき作陽大学音楽学部音楽学科打楽器専攻の非常勤講師として勤務しています。母校で打楽器を教えることができること、夢のまた夢のことでしたので、大変嬉しく思っております。

同時に学生の卒業後の人生を担うものとして、責任の重大さも感じています。

後輩でもある学生一人一人の気持ちにしっかり寄り添い、愛情を持って指導していきたいと思っています。

自分の学生時代よりも、新しい制度や取り組みがあり、新鮮さも感じられる今の大学を卒業生の方々にも発信できたらと思っています。



内山さん

## 卒業生のご活躍

### 板野直子さん(昭和61年3月 作陽音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業)

板野直子(旧姓土井内)さんが、第1回東京国際管弦声楽コンクール「声楽部門 G女声の部」で第5位に入賞されました。

#### ご本人のコメント

令和5年4月、サントリーホール:ブルーローズにて東京国際管弦声楽コンクールの授賞式及び記念演奏会に参加する栄誉をいただきました。私は現在、小学校の音楽専科として勤務しながら恩師の元吉恵子先生のもと声楽のレッスンに通っております。そんな時、先生からコンクールのお誘いをいただきました。若い頃とは違い、家庭と仕事との両立、年齢的な声の制約、体力の限界など参加を躊躇する気持ちもありましたが、熱心に教えてくださる先生や家族の応援もあり、出場を決意しました。いざ舞台に立つと、深い感慨や一歩前進できた喜びとともに、感謝の気持ちが溢れ出しました。この経験を大切に今後も人々の心に寄り添う音楽を奏でていきたいと思っております。



### 和氣梓紗さん(平成27年3月 食文化学部現代食文化学科卒業)

大学を卒業して、岡山県で高等学校家庭科講師をしています。これまで赴任した学校で教え子が家庭科の先生になりたいということで、作陽に進学した子が多数います。食に関わる免許、資格を取得し、教員免許状を取得するのは、本当に大変でしたが、この子たちも教員免許を取得して卒業しましたと嬉しい報告に来てくれました。微力ながら、作陽に進学してくれる子を育てていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。また部活動でバドミントン部の顧問もしており、今後部活動でも大会で上位入賞など目指して頑張りたいと思っております。



## 愛媛県支部総会のお知らせ

【お知らせ】

### くらしき作陽大学・作陽短期大学同窓会 愛媛県支部総会について

日時:令和5年11月23日(木・祝) 16時00分~18時00分

場所:松山市朝生田町 日記館 会費:2,000円

申込先:愛媛県支部事務局 岸洋一郎

メール alexman0214@gmail.com または  
090-5148-6176

※参加申込者には、愛媛県支部事務局より後日、詳細をご連絡いたします。

## 鶴声会からのお知らせ

### 同窓会名簿等個人情報の取扱いについてお願い

お持ちの同窓会名簿を転売、紛失しないようご注意ください。

近年、名簿などを悪用したセールスや詐欺等の被害が発生しているようです。

名簿を購入された会員皆様一人ひとりの、適切な個人情報の取り扱いが重要です。

今後の同窓会活動の運営が円滑に図れるよう、皆様のご協力をお願いします。

### 同窓会鶴声会ホームページのご案内

平成30年9月に同窓会ホームページを開設しました。これまで発行した同窓会会報誌、同窓会鶴声会の後援申請、卒業生主催の演奏会、講演などをご案内させていただきます。

HPアドレス <http://sakuyokakuseikai.iinaa.net/>

HP掲載の情報提供は

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515

くらしき作陽大学 同窓会鶴声会事務局

TEL 086-523-0888 E-Mail katayama@ksu.ac.jp

こちらまでお願いいたします。



## 福岡県支部長交代のお知らせ

令和5年7月28日(金)に同窓会鶴声会福岡県支部幹事会が福岡市で開催され、会長指名により、これまで長きにわたり福岡県支部を盛り立てていただいた仲芳美さん(S.46卒/久留米)に代わり、これまで福岡県副支部長として仲支部長を支えていただいていた石川純一さん(S.47卒/福岡)が支部長に就任されることとなり、仲支部長は福岡県支部顧問として引き続きご協力いただくこととなりました。また、石川新支部長より、池永京子さん(H.2卒/北九州)、小寺聡さん(H.14卒/福岡)両名を副支部長へ指名する旨報告がありました。



## 卒業生の皆様 知っく情報

### ～作陽で取得した免許資格を活用されてはいかがでしょうか～

新聞記事でも取り上げられておりますが、近年教員不足が深刻化しています。今年も岡山県教育委員会から、家庭科教諭、音楽教諭、小学校教諭が非常に不足しているため、講師の依頼がありました。教育現場では、高等学校臨時教員、小学校時間講師、中学校臨時教員などの教員を望まれています。

令和4年5月「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」の成立により、令和4年7月1日付で教員免許更新制度は解消されました。休眠状態のものを含め、手続きすることなく有効期限のない免許状として有効です。新・旧免許状をお持ちで、免許が失効または休眠されている方も、都道府県教育委員会で再授与申請手続きを行うことにより、有効期限のない免許状の授与を受けることが可能です。

ぜひとも後進の指導に活用されてみてはいかがでしょうか？

## 大学からのお知らせ

### ～お子様の進路のご参考に！現在の作陽を知る大学案内の活用～

現在、くらしき作陽大学ではさまざまな受験優遇制度が充実しております。

くらしき作陽大学(旧作陽音楽大学)・作陽短期大学の卒業生のご子息への入学金減免制度があり、さらに今年度から総合型選抜(食文学部、子ども教育学部、短期大学幼児教育専攻)合格者への給付金制度ができました。大学合格者に10万円、短期大学合格者には5万円が給付されます。国公立併願優遇制度として、国公立併願者への検定料還付措置もできました。

その他、特待生制度、兄弟姉妹同時在学の場合の授業料減免制度、教育ローン利子補給奨学金制度、松田藤子記念奨学金など多様な措置があります。

詳しくお知りになりたい方は、入試広報室にお問い合わせいただくか、大学ホームページをご覧ください。

なお、大学の講習会、オープンセミナーも充実しています。

お近くにご興味のある方がおられましたら、お知らせください。

お問い合わせ先 入試広報室 0120-911-394

**オープンセミナー 2023**

対象学部学科  
食文学部・子ども教育学部・短大幼児教育専攻

日程

- ★ 5月21日 ★ 10月15日
- ★ 6月18日 ★ 11月12日
- ★ 7月15日 ★ 12月17日
- ★ 8月5日 ★ 2月18日
- ★ 9月16日 ★ 3月17日

※受付 9:30～10:00 ※申込受付 10:00～11:00 ※入試広報課 11:10～12:10

オープンセミナー参加方法  
大学のホームページから申し込みのうえ、お申し込みの日の2日前(正午まで)にお申し込みください。  
(お申し込み締め切りは、お申し込みの予定です)

ひとの心を動かすひとになる。  
くらしき作陽大学 作陽短期大学

**作陽音楽講習会 要項 2023**

開催日	受付時間	申込日	申込時間
5/21 (日)	5:12:00	8/29 (日)	11:27:00
6/18 (日)	6:30:00	9/7 (日)	12:7:45
7/15 (日)	7:45:00	10/5 (日)	2:5:45
8/5 (日)	8:25:00	10/23 (日)	2:26:00
9/16 (日)	9:25:00	11/21 (日)	3:7:45
10/15 (日)	10:5:45	12/17 (日)	11:27:00
11/12 (日)	11:21:00		
12/17 (日)	12:7:45		

くらしき作陽大学・作陽短期大学  
音楽学部

## お悔やみ

昭和45年3月  
音楽学部音楽学科 (Trp) 卒業

菊井 勝様

※2023年2月4日ご逝去

作陽学園事務局に勤務され、鶴声会会長、顧問として活躍されました。



平成5年3月

音楽学部音楽学科 (Sax) 卒業

福田 剛様

※2022年12月ご逝去

福岡県にて中学校、高等学校音楽講師として吹奏楽指導、生徒指導に携わってこられました。



昭和47年3月

音楽学部音楽学科 (Pf) 卒業

伊勢田豊文様

※2023年3月7日ご逝去

鶴声会前関西支部長として活躍されました。



昭和62年3月

音楽学部音楽学科 (Vc) 卒業

下城 隆一郎様

※2023年7月17日ご逝去

謹んで皆様のご冥福をお祈りいたします。



# 鶴声会役員紹介

会長	副会長	常任幹事						幹事
木村一也	片山嘉政 窪田紀之	長瀬敏和 菅付章宏 赤松英彦 森博文 居川寛子 重利和徳 鬼本敏男 藤澤克彦	元吉恵子					
幹事		事務局長	事務局		会計			
板野直子 中井章徳 岡村晃平	杉山里緒 田井志帆子 高橋万由花 堀愛美	小山陽介	藤木理子 武田真理子	館一彰	兵頭奈保			
会計	書記	監査	顧問		名誉顧問			
平松朋子	中野広大 大塚舞奈	徳永晶子 川西友紀子	中桐寛 大林史明 松井輝善 井端豊実 安部欽也	菊井勝				

## 各県別会員数

(令和5年7月現在)



### 鶴声会事務局からのお願い

お引越しやご結婚等によりご住所、お名前に変更が発生した場合には鶴声会事務局までご連絡ください。また、お知り合いの方で会報誌が届いてない方がいらっしゃれば恐れ入りますが鶴声会へのご連絡をしていただくようお願いできれば幸いです。

**鶴声会専用連絡フォームURL** [https://www.ksu.ac.jp/form/kakusei\\_contact/](https://www.ksu.ac.jp/form/kakusei_contact/)

大学HP「Topページ」→上部「卒業生の方」→「同窓会」→「鶴声会お問い合わせ・住所変更」とお進みください。



スマートフォンのバーコードリーダーアプリ等で読み込んでいただければご利用いただけます。

### 編集staff

監修：小山陽介  
制作：片山嘉政・館一彰・兵頭奈保・藤木理子

### 編集後記

会報誌「鶴の声」もこのたび、第13号の発刊を迎える運びとなりました。毎回発刊に際し、取材協力、そして情報のご提供をいただきまして、誠にありがとうございます。

出口が見えないと思われた新型コロナウイルス感染症も感染症法上の5類相当に移行され、私たちの生活も少しずつ制約解消に向かっています。

規制されていた音楽関係の演奏会活動や飲食業界の外食産業再燃、そして学校支援活動など卒業生の活動が再稼働されているかと思えます。卒業生の活躍の様子などをこれからも数多くご紹介していきたいと思っておりますので、情報がございましたらぜひとも鶴声会事務局までお寄せ下さい。

今年度も鶴声会幹事に音楽学部・食文化学部の卒業生を迎え、音楽・食文化・子ども教育学部がますます連携し、より一層の情報発信や学部を超えた親睦のためのサポートができるよう一生懸命努めてまいりますので、今度とも同窓会鶴声会へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(旧津山校舎)

### くらしき作陽大学同窓会 鶴声会

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515

Tel:086-523-0888 Fax:086-523-0811

(くらしき作陽大学代表番号)

[katayama@ksu.ac.jp](mailto:katayama@ksu.ac.jp)

<http://sakuyokakuseikai.iinaa.net/>

